

平成21年10月17日発行
第70号

発行
印南宏後援会
発行責任者 印南宏



さわやかな季節を迎えています。地元、竹内神社や布佐下稲荷神社の祭礼も終わり、季節は一步一歩確実に、秋から冬へと向かっていきます。平和台の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

まずは、先日の台風十八号の本土直撃で床上、床下浸水など被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今年を振り返ると、三月に千葉県知事選挙、六月には千葉市長選挙、七月に東京都議会選挙、八月三十日には第四十五回衆議院議員選挙が行われました。まさに選挙の一年となりました。

広がった 政権交代への期待

その中でも第四十五回衆議院選挙は政権交代をテーマにした民主党が大勝利し、歴史的な政権交代劇となりました。「自民党には不満はあるが、民主党には不安がある」と言われたものの、小泉首相退陣後、ころころと首相が入れ替わる自民党政権運営のもたつき、そして年金記

録問題に代表される官僚不信、さらには格差拡大や景気後退で深まっている将来に対する不安などから、「一度民主党にやらせてみよう」の声が保守層にも大きく広がったことに民主党勝利の要因があったと私は理解しています。決して政策論争だけで勝利をしたのではないと思っています。

地方の力が問われる

しかし、これからが問題です。従来の仕組みと税金の流れが、民主党のマニフェストの支出先は企業から家計へ大きくシフトしていきます。また、国と地方の関係も変わり、権限と財源が大幅に地方にシフトされ、地方の力が大きく問われることになりそうです。既に九月市議会でも、政権交代による影響が水道料金のあり方や根戸新田の今後などに微妙な変化を与えています。

一方で、財政の流れから外れた企業や業界、そして大規模公共事業の削減等で恩恵を受けられない地方は大きく疲弊することも想定されます。また、個人においても、所得税の配偶者控除や扶養控除も無くなることで、大幅な増税になる階層も出てくることになりそうです。まさに陰と陽に分かれることになり

改革の成果を出すには時間が必要ではありませんが、いざにしても政権を任せられた政党として民主党は、政治を変え、国民の視線で日本を導くべき道を示し、目指す国づくりを邁進してほしいと思っています。



小選挙区制度

今回の政権交代選挙を地方議員の一人として見てみると「選挙は個人の資質ではない」と強く感じています。もちろん優秀な方々が立候補しているのですが、小選挙区制の下では、党に逆風が吹くと議員のこれまでの活動や実績、資質に関係なく、吹き飛ばされる人は簡単に吹き飛ばされてしまいます。もちろん地盤・看板・カバンの選挙三要素の強い人は生き残りますが、それは極少数です。

小選挙区制は政党が中心となつて政策が立案され、その役割は何かと言えは、政権政党の政策立案過程をできる限り、透明性を持たせる働きをすること、市民にわかりやすく、できる限り情報公開に努めることが大切だと思っています。

私たちの政治を変える

私は民主党連立政権のマニフェストに書かれていることを完全に実施することは困難だと思っています。住民視点で調整の必要性も出てくると思っています。従って、むしろ走りながらも柔軟にマニフェストの政策を修正・加除して機敏に市民生活第一の対応をしてほしいと思っています。

今回の選挙での一番の感動は、有権者の一票で「政治を変えられること」を知った事実です。新政権は年金や少子・高齢化、地球温暖化など山積している難問に果敢に挑戦し、「政治が変わった」という感覚を市民に与え続ける努力を願うとともに、身近な政治の実現に向けて新しい政治の姿を確立してほしいと願っています。

印南 宏 現在の主な役職

- 市議会「あびこ21」会派代表
- 市議会教育福祉常任委員
- 決算審査特別委員会副委員長
- 我孫子市成田線を便利にする議員の会副会長
- 連合千葉議員団 幹事長
- 電機千葉議員団 前幹事長
- 我孫子市サッカー協会 顧問
- 我孫子市ソフトボール連盟 顧問
- 新聞奨学生OB会相談役(前会長) 他

九月議会

九月議会は八月三十一日から九月十七日までの会期十八日間で行なわれました。主な議案は①市職員の育児休業等に関する条例改正、②国民健康保険条例の改正(出産育児一時金三十八万→四十二万円)、③文化施設整備基金条例の制定、④水道事業給水条例の一部改正(水道料金、開栓手数料の値下げ)、⑤農業委員会委員の定数削減条例(十五名→十三名)、⑥補正予算七億九千万円の計上、そしてその他として我孫子北区域近隣センター建設工事費二億一千百万円での請負契約締結(上村建設工業と締結)が挙げられます。

このうち、補正予算の中で新規就農支援事業として計上されている「養豚場予定地の取得」の是非にくわえて、養豚場を経営する農業生産法人が既に解散されていることや市が取得することによる他地区への波及問題などが、市議会を二分する争点となりました。

九月議会で 水道料金値下げ決定

〈水道料金の改定と八ツ場ダム〉

水道料金給水条例の一部改正(値下げ条例)は、五月十二日水道事業運営審議会に料金見直しの諮問を市長が行い、料金の見直し案についてパブリックコメントを実施しました。そして、その意見を考慮し、当初の料金案を一

部変更し、九月議会で給水条例の一部改正案が提出され、可決成立されました。これにより、平成二十二年四月より、平均七・八六%の値下げが決定いたしました。

今回の値下げ・料金体系見直しの理由は、平成八年八月一日に料金改定から今日まで水道局が安定した利益を計上し続けていることにもありますが、平成二十年度から水道局が水を購入している北千葉広域水道企業団の受水費が減額となっていることや、ライフスタイルの多様化から十立米以下の利用者の節約の努力報われないことなどから使用水量に応じた料金制度を望む声が多く寄せられています。

受水費の料金算出には水の原価計算を行っていますが、現在の北千葉広域水道企業団は、事業中止の是非で論議を呼んでいる「八ツ場ダム」建設事業の総事業費四千六百億円に対する建設時出資金の負担も計算の一部に入っています。我孫子市は利水団体の一つとして、北千葉広域水道企業団負担分の七%分の負担を課せられ、昭和六十二年から平成二十年度まで、七千四百八十万円支出済みです。計画では今後、平成二十七年まで、総額一億七百万円を我孫子市は負担することになっていきます。

「再考」の対象になっています。各所のダム事業中止の是非もその一つで、行政の停滞につながる恐れもあります。変革に向けたチャンスでもあります。はたして必要なのはダムなのか、それとも長期にわたる工事費や振興策の

方なのか、費用対効果を厳密にチェックしたうえで「選択と集中」をしなければなりません。ただし、「八ツ場ダム」に関しては、遅きに失した感があります。

「八ツ場ダム」に関しては、国の動向も踏まえ、建設中止となつた際には、我孫子市として支出した建設時出資金については返還を求めていくのは当然なことだと考えています。

印南 宏は九月議会で会派あ びこ21を代表して、質問・提 言を行いました。

(市側の回答等詳細の議事録は、別途我孫子市議会のHPや「議会だより」などをご参考ください。)

参考：我孫子市議会
http://www.city.abiko.chiba.jp/index.cfm/15_496_77.html

【基本構想の見直し・新型インフルエンザの対策・介護保険事業・市民バスと地域公共交通戦略・市民会館の整備・日本女子オーブンゴルフ選手権大会と活力あるまちづくり】

代表質問 〈主な内容〉

私は、九月議会において所属会派である「あびこ21」を代表して次の質問・提言を行いました。執行部とのQ&Aの骨子をご紹介します。

○我孫子らしい新型インフルエンザ対策を実施せよ!

《印南》新型インフルエンザ対策行動計画の進捗状況は。我孫子らしい特徴点を入れて、実効性のあ

る計画にしてほしい。

《市長》行動計画は九月十一日に開催する第十三回対策本部会議で決定する予定である。全庁的に対応するため、対策本部の組織と発生段階別の目標や各課の対応策を明確にした。実効性のある対策にするため、庁内関係部署に周知徹底する。市民へも公表する。

○新たな特別養護老人ホームの整備は!

《印南》平成二十一年度着工、二十三年度開設と言う計画の特別養護老人ホーム整備の進捗状況は。

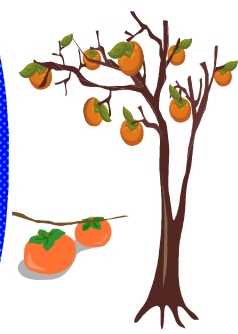
《健康福祉部長》八月に整備事業者の公募を行い、一事業者から整備要望書が提出された。今後は社会福祉施設等整備選考委員会で事業者の評価を行ったうえで、県知事宛に整備要望書の意見書を作成する。その後、整備事業の採択をする千葉県が十二月に事業者からの整備要望書を受け付け、平成二十二年三月に法人審査会の審査を予定している。

○誰もが移動し易いまち、我孫子を実現しよう!

《印南》市民バス等運行指針の見直しに当たっては「あびこバス」のみに着目するのではなく、地域公共交通戦略として総合的に策定し、誰もが移動し易いまち、我孫子を実現すべきでは。

《建設部長》指針の見直しに当たっては、運行路線や費用対効果等の検証を行い、市民ニーズを踏まえた路線の見直しを検討する。また、地域公共交通全体を検討していく必要がある。既に公共交通支

交通の抜本的な見直しを行い、誰もが移動しやすい街、我孫子を実現するための貴重な見直しの機会にすべきであると考えています。



平和台雑感

◆我孫子市内最大の自治会組織は布佐平和台自治会である。今年、布佐平和台自治会は創立三十周年の節目を迎えた。今日まで歴代自治会役員各位、多くの皆様のご努力によって市内でも屈指の「安全で住み良いまち」として知られるようになった。また、今年四月には千葉県で新しくスタートさせた「防災共助力推進モデル事業」による支援対象組織第一号に布佐平和台自治会が指定された。関係各位の弛まぬ努力、ボランティア精神に心より感謝。先日記布されたわがまち(防災)第十六号、委員長談にあるように、防災活動の原点は地域のコミュニティケーションづくりであり、すべての皆さんが等しく「安全で安心して暮らせる街づくり」を目指すことにある。これからも自治会と防災委員会が一体となつて取り組みを強化し、住み良いまち我孫子の「モデル自治会」となるように一人の自治会員としても努めていきたい。

◆「第四十二回日本女子オープンゴルフ競技選手権」が我孫子ゴルフ倶楽部で十月一日から四日まで盛大に開催された。大会は日本を代表する女子プロ・女子アマのトッププレイヤーをはじめ、多くの大会関係者・お客様(約三、六万人)が我孫子市を訪れてくれた。私は九月市議会で次のような質問を行なった。【このイベントは我孫子市を内外にPRする絶好のチャンスの一つであり、二箇所設けられる入場口では「我孫子ガイドマップ」をはじめ、鳥博や白樺文学館など市内各施設のパネルやチラシを配布することになった。このようなビッグイベントをうまく活用しながら、我孫子市のPRを含め、来訪者へのおもてなしとして何ができるのか、商業の活性化にどう結びつけていくのかなど、まさに智慧の出し所のイベントである。ゴルフというスポーツは我孫子市と大変縁が深い関係にある。世界の青木を生んだ名門、我孫子ゴルフ倶楽部が存在することはもちろん、ゴルフのバーディー、イーグルといったゴルフ用語も元はずべて鳥(バード)に関連した言葉が由来である。「人・鳥・文化のハイモニー」を将来都市像とする当市にとつて、このイベントを通じて新たな郷土愛が生まれるような大会になればと考えている。】大会は最終日、横峯さくらと宋ボベのプレーオフとなり、大変な盛り上がりの中、宋ボベが優勝、成功裏に終わった。この大会を通して多くの市民の皆さんや商工会、市役所関係者の方々による一生懸命のおもてなしが行われた。我孫

子市という街をどんな印象でお帰りになったのか、今後、その答えが出るものと思っている。◆九月のある日、けやきプラザで開かれた「認知症サポーター養成講座」を受講した。認知症は誰でも起こりうる脳の病気であり、八十五歳以上では四人に一人にその症状がある。現在百六十九万人だが、今後二十年で倍増が予想されている。認知症の人が尊厳を持つて最後まで自分らしく生きる。これば誰もが望むことだと思ふ。その為には地域の支え合いが必要である。誰もが認知症について正しい知識を持ち、認知症の人や家族を支える手だてを知っていれば「尊厳ある暮らし」をみんなで守ることが出来る。五年前に「痴呆」から「認知症」へと呼称が変更になった。高齢者の尊厳を考えれば当然の変更だと思ふ。現在、「認知症を知り地域をつくる十カ年」のキャンペーンが始まっている。多くの皆さんが認知症を理解し、認知症サポーターが増えるように暮らせる街につながるように運動の広がりを望んでいる。

◆私はちよつと一杯、飲みたい時に気軽に寄れる、立ち飲み店が大好きだ。残念ながら市内に適当な店が無いので、もっぱら都内に出たときに利用する。最近、都内では立ち飲み店が増えている。昨今の景気の悪さを反映しているのか、真の理由はわからないが確実に若い人の利用も増えているようだ。私が立ち飲みを利用する理由は、第一に安いこと。そしてなんと、第一に敷居が低く、店に入り易いことが上げられる。一人で

入っても気軽に飲めるし、初めて一緒に飲む人でも肩が触れるような近さなので話も弾むし、相手との距離感がちょうど良いと感じている。そして、立って飲むからこそ長い時間、飲むことはできない。つまり深酒は皆無。今までのような立ち飲み店を利用したが、気分良く飲めた立ち飲み店のポイントが、女性客がいて、厨房が客側から良くみえる店である。印象が良い。仕事が終わり、明日への気分転換に今日も酒は欠かすことがない。



宏

印南 宏後援会

〒270-1198 我孫子市日の出 1131
(日本電気労働組合我孫子支部内)
Tel 7184-2860

印南 宏 自宅

布佐平和台 7-1-18
Tel 7189-1598
e-mail innami@mqd.biglobe.ne.jp
ブログ http://hiroshi4649.at.webry.info/